

日本大学学長の業績評価

令和 8 年 6 月 8 日
学校法人日本大学
監 事

1 監事の評価方法について

① 現任監事の体制及び担当分野

現任の監事は本学の元学部長，元事務局長，学外の弁護士及び公認会計士の 4 名であり，担当分野はそれぞれ(1)教学上の管理・運営業務，(2)経営上の管理・運営業務，医事法制，(3)法律分野，(4)経理・財務分野である。

② 理事の業務執行に対する監事監査の実施状況

私立学校法の定めに従い，監事は，理事の業務執行を監査するため，評議員会，理事会，常務理事会，学部長会議等，法人の意思決定に関わる諸会議及び業務執行理事の打ち合わせ（執行部ミーティング），管理系及び教学系の重要な委員会・会議等に原則として全員が出席し，必要に応じて意見表明を行っている。また，監事は，理事長，学長をはじめとする業務執行理事，法人本部所管部署等と随時面談を行っており，ヒアリングを通して業務執行の状況を確認している。

上記のように，監事は日常的に大貫学長の言動に接し，学長の思い，理念，政策そして業務執行を継続的に注視してきた。

③ 大貫学長との面談

学校法人日本大学役員規程に基づき，令和 7 年度学長業績評価に伴う学長と監事の面談を実施した。

- | | |
|-------|--|
| 1 日 時 | 令和 8 年 5 月 2 6 日(火) 午後 1 時 3 0 分から午後 2 時 3 0 分まで |
| 2 場 所 | 日本大学会館学長室 |
| 3 出席者 | 大貫進一郎 学 長 |
| | 山本 寛 常勤監事 |
| | 小林 清 常勤監事 |
| | 山本 剛史 学外監事 |
| | 奈尾 光浩 学外監事 |

以上、②及び③の結果を踏まえ、以下のとおり、令和8年3月18日(水)開催の臨時理事会において決定した学長の評価項目に基づく業績評価を行った。

なお、評価に際しては、「著しい成果が挙がっており、高く評価できる」、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」、「ほぼ計画どおりに進んでいる」、「一部改善の余地がある」、「改善の余地が大きい」の5段階にて評価を行った。

2 学長の評価項目に基づく業績評価

① 教学に関する基本方針として定めた内容を着実に進めているか。

教学に関する基本方針に沿って、副学長、学長特別補佐及び副学長補佐等によるサポート体制や教学企画戦略委員会を立ち上げ、施策の実行や学部間連携を可能とする教学改革を着実に遂行しており、確かな成果を挙げている。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

② 多様性を尊重した施策の展開及び社会との関係構築を進めているか。

本学初の女性副学長の登用や日本大学ダイバーシティシンポジウムの開催など、多様なバックグラウンドを持つ人材が活躍できる組織づくりを積極的に推進している。また、自治体との包括連携や国内外の大学との協定締結等を通じ、社会・地域・国際的な関係構築でも着実な成果を挙げている。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

③ 理事長と協力し、透明性ある学校経営を推進しているか。

理事長と密に協力し、私立大学ガバナンス・コードが定める「経営の透明性」の重要性を共有しながら、教職員の協力を得て公正な学校経営の推進に尽力している。また、理事長との良好なコミュニケーションも確立している。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

- ④ 社会的信用の失墜を回復すべく、学生・生徒等、保護者及び教職員が誇りを持てる大学を目指した改革に尽力しているか。

自ら積極的な情報発信（YouTube 企画等）を行い、教職員とのコミュニケーション強化と、全学的な改善改革に尽力している。粘り強いガバナンス改革の結果、大学認証評価における適合認定を受け、志願者数の増加や社会からの信用回復において確実な実績を挙げている。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

- ⑤ 所信表明で示したオール日大での施策実行とイノベーションの実現に努めているか。

学長は、「全学的な教学マネジメントの確立と質保証への取組の強化」を施策として掲げ、オール日大の総合力を活かし、教育の内部質保証体制の強化を進めた。さらに、日本大学情報イノベーションセンターの設置による全学 DX の推進など、教学・管理面におけるイノベーション実現に向けて着実な成果を挙げている。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

〔総合評価〕

大貫学長は、教学の最高責任者として本学の教育憲章に基づく種々の教学施策とインフラ整備を果敢に推進しており、目覚ましい成果を挙げている。また、林理事長と手を携え各地のキャンパスに出向き、学生の声に耳を傾けている。学長の教学への信念は常に「学生ファースト」にあって、全ての教育施策に反映されていることが理解できる。

学長が理事長とともにガバナンス改革と社会的信用の回復に全力で取り組んできた姿勢とその実績は高く評価できる。

以上を総括し、大貫進一郎学長の令和 7 年度の業績評価に関する総合評価は、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

以 上